

# 就農事例

## 森 香文氏 (森 農園)

調査日	令和4年2月(就農後7年目)
所在地	仲多度郡多度津町
経営主	森 香文
主要事業	水稲、露地野菜、施設野菜
主要作目	水稲 320a はだか麦 250a ブロッコリー 20a ニンニク 20a スイートコーン 40a アスパラガス 10a 温州みかん 30a
就農タイプ	新規就農(兼業農家出身)
就農時期	平成27年
労働力	家族 3名(本人含む) 常時雇用 0名 臨時雇用 4名

## ヒストリーあらすじ

・兼業農家出身で、農作業の手伝いはしていたが、自身は農外の仕事に就いていた。農業は休みも取り難く、職業としての大変さを身近に感じていた。

・父が定年退職を機に農業に専念する準備を始め、自身も会社を退職したタイミングで、農業について改めて情報収集する中、“自分でものをつくりだす”仕事に魅力を感じた。独立・自営就農することを決め、家族を説得し、農業の道に進んだ。

・農用機械は使えていたが、系統立てた知識・技術を得るため、香川県立農業大学校で研修しながら、父の農園で実践するほか、地元の先進農家に見学に行くなど情報を集めて経営開始の準備を進めた。

・親戚と周辺農家から農地を借り受け、ブロッコリー50aと水稲の作業受託により経営を開始し、徐々に露地野菜の品目を増やし、面積を拡大した。当初数年は品質が安定せず、土づくりや水管理、品種の試作検討をしたが、現在は安定生産ができています。

・令和2年に認定農業者となり、アスパラガスを導入した。令和3年には、父の農地を引き継ぎ、現在は、果樹も含めた複合経営となる。制度資金や補助事業を活用し、機械整備による省力化・効率化に努めている。

エッセンス	
●農業の魅力	・農業のクリエイティブで可能性のあるところ(自身がやったことが成果として返ってくる楽しさ、自由さ)に魅力を感じている。
●基本を大切に徐々に規模拡大	・5年間の経営計画を基本とし、毎年、試作を行い、品目を模索しながら面積を拡大する一方で、作業時間の限界を見極め、機械導入で効率化を進め、着実に経営を発展させている。
●今後の課題	・省力化機械導入...適期作業と更なる効率化 ・人材の育成...人材の確保、雇用管理の能力向上 ・地域貢献...新たな新規就農者のよき相談相手に
●座右の銘	・地域農業の担い手として信頼してもらえる農家になる



ブロッコリーから就農開始



ニンニクなど露地野菜の作付け拡大



露地に加え、アスパラガスを導入



麦の生育状況を確認中  
(機械化を進めて面積拡大)



アスパラガスの収穫に向けて立茎確認



森香文氏 ヒストリー

就農前(平成26年まで)	就農期(就農初期の5年間) 平成27年～平成31年(令和元)	経営の確立期 令和2年～令和3年	発展・将来展望
<p>●他産業従事・農業への思い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農外の企業に就職。</li> <li>・実家は兼業農家。参入するなら早い方が良いと考え、家族の反対を説得した。</li> </ul> <p>栽培品目を調べ、親類の協力で最初の農地は確保できたが、知識と技術に不安があった。</p>	<p>●H27年認定新規就農者に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成27年4月就農(雇用なし)</li> <li>・農地を借り入れ、ブロッコリー50aから栽培開始。</li> </ul> <p>農業委員の協力を受け、農地集積を進めた。ほ場ごとに排水性など癖が異なり、生産量や品質向上に向けて技術を研鑽した。</p>	<p>●R2年認定農業者に</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営継承を意識した計画を作成し、機械を整備。</li> <li>・新たに施設野菜(アスパラガス)を導入。</li> </ul> <p>父の果樹園や施設の継承を想定し、雇用について検討を開始。補助事業を活用した機械整備で経費節減に努めた。</p>	<p>●経営継承・新たな品目導入</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・父から経営継承を受け、果樹と施設野菜を増やし新たな経営展開に挑戦。</li> </ul> <p>露地部門はニンニク、スイートコーン等、栽培に手ごたえを感じた品目に絞る。施設野菜を拡大し、年間を通じた所得安定を図る。</p>
<p>●研修の開始</p> <p>農業大学校の「就農準備研修」(8カ月)を受講し、露地野菜の知識・技術を習得。</p> <p>同時に、実家の農業を手伝い、先進農家を見学し、地元での交流と実践的な栽培技術の習得に努めた。</p>	<p>●生産量と品質の安定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JA部会(ニンニク、ブロッコリー等)に加入。機械を導入し効率化を図る。生分解マルチも検討。</li> </ul> <p>情報が集まる場として、部会や同品目の生産者と積極的に交流。農地情報も集まるように。</p> <p>●新品目の導入と規模拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H28 スイートコーン 50a導入</li> <li>・H29 ニンニク 20a導入</li> <li>・H31 麦 150aを導入</li> <li>※ブロッコリー縮小し作業分散</li> </ul> <p>常時雇用はせず、作型分散と機械化で安定生産を図る。スイートコーンは個人で販路を確保。</p>	<p>●機械化体系の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産から出荷調整まで一連の作業と家族の働き方も加味して機械の更新や、大型トラクターの整備を進めた。</li> </ul> <p>天候不順でも短時間で作業できることが大きなメリット。作業効率上がり、計画的な作業が容易になる。</p>	<p>●労働条件の整備(雇用開始)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・常時雇用や研修受入を見据え作業環境の見直し改善を図る。</li> </ul> <p>労務管理を学び、作業体系を整えながら規模拡大を進める。</p> <p>●経営者として</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の目指す農業の実践。</li> </ul> <p>「自分が食べて美味しいもの」を作り、やりがいをもって経営を発展させたい。産地を盛り上げ、売り方を提案できるような力をつけたい。</p>

森香文氏 <課題と対応策>

フェーズ		就農前 ～平成26年	就農期 平成27年～令和元年	確立期 令和2年～	発展・将来展望
主な出来事		<ul style="list-style-type: none"> <li>●農業参入を決意</li> <li>●農業大学校で研修(8カ月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農地の確保(農地機構)</li> <li>●ブロックリー生産で就農</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農地の拡大</li> <li>●新たにアスパラガス導入</li> <li>●雇用の導入を検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●経営者としての成長</li> <li>●雇用の導入</li> <li>●経営移譲</li> </ul>
	ヒト・組織	家族の協力で就農準備	認定新規就農者(H27～) 本人のみ(雇用なし) JA部会加入	認定農業者(R2～) 本人+臨時雇用あり JA部会	本人+雇用1名体制
	土地・設備	機械:実家から借りられた 農地:親類と農業委員会に相談	省力化のための設備投資 農地の計画的な規模拡大 開始	アスパラガスの施設整備と 機械導入で効率化を検討	施設(ハウス)を規模拡大 耕作放棄地の情報収集
	カネ	就農後の資金繰りを想定し、 自己資金を蓄えた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・青年等就農資金(コンバイン)</li> <li>・次世代人材投資事業</li> <li>・JA補助事業 等を利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農地機構担い手強化事業(サイバーハロー導入)等を利用</li> </ul>	規模拡大の運転資金や、施設の増設に向けた資金の確保
	技術・ノウハウ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農大で基礎を習得</li> <li>・親類の農地で実践</li> <li>・地元の先進農家へ相談・見学</li> </ul>	先輩農業者やJA部会の交流で 情報収集。作業受託(田植・刈取)を行い技術向上を図る。	新たに施設野菜が加わり、品質の維持・向上に向けた技術確立。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場ごとの安定生産</li> <li>・ミニトマト生産に関心あり</li> </ul>
	販売・販路	JA主体の出荷を想定	JA主体の出荷	JA主体の出荷 一部、個別販売先を確保 (スイートコーン)	JA主体の出荷 個別販売先の拡大 ネットを利用した直販
	情報	町、JA、普及センター 研修先(農大)	JA部会、町、普及センター、 先輩農業者、インターネット等	JA部会、町、普及センター、 先輩農業者、インターネット等	地域へ情報発信できる経営を目指す
	地域	多度津町(実家周辺)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実家周辺で就農し、同品目の生産者仲間が多い。</li> </ul>	農地は、実家周辺に集約。 地域活動にも関心あり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農業の担い手として新規就農者の相談・研修受入等へ協力</li> </ul>
	具体的内容 (課題の内容)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・知識、技術不足の中で、就農スケジュールを作成。農地の借入や機械の導入など、1つずつ計画を基に関係機関に相談した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンク、スイートコーンなど新品目導入に向け、作型の分散や作業の効率化を再検討。</li> <li>・面積拡大した各農地の条件に応じた生産技術の確立。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働条件の整備(人材確保)の検討。</li> <li>・施設野菜の導入により、天候によらない作業配分を行うことで経営の安定化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働力に応じた経営規模と品目の選定を行う。</li> <li>・事業としての経営改善と、経営者としての資質向上</li> </ul>
対応案 (課題にどう対応したか)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族に就農の意志を伝えて説得し、協力体制を築いた。</li> <li>・農大での研修を実家の農地で実践し技術習得に努めた。</li> <li>・WEB等を利用して支援制度や栽培知識を情報収集。</li> <li>・自己資金の確保と初期投資の縮小に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業委員や先輩農家に相談。</li> <li>・補助事業や制度資金の活用。</li> <li>・ほ場ごとの生育状況の把握。</li> <li>・マーケティングを行い、予約販売など販路開拓に努めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細やかな農地の見回り・栽培管理の実施。</li> <li>・労働環境の改善(休憩時間等の確保)の検討</li> <li>・多品目に対応できるよう機械設備の導入と、年間栽培計画、作業動線などを見直す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税理士の助言を基に経営分析に努め、安定経営の構築を目指す。</li> <li>・地域から様々な情報を収集して学び、経営に還元したい。</li> <li>・地域の担い手として、就農者の相談や地域活動に協力していく。</li> </ul>